

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム 第 55 回会合 発言録

2024 年 10 月 21 日

加藤: 予定の時刻になりましたので、始めさせていただきたいと思います。第 55 回活発化チームの会合でございます。アジェンダに沿って進めさせていただきたいと思います。まず、お名前をお見受けしておりますけれども、総務省の飯田さまから最近のご報告等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

飯田: 飯田です。今週はほとんどご報告することがなくて。GDC がいろんなところで話題にはなってます。例えば、先週 G7 の 2 回目の大臣会合があったんですけども、その場でも GDC が、国連総会の場で未来の宣言の一部としてできて。AI のパートが多いけども、IGF やコネクティビティのところも含めてこういう結果になったんで、今後どう見ていこうか対応していこうかっていうことがその都度話題になってます。先進国の間の受け止めは大体共通してますので、今後国連が、コネクティビティやインターネットガバナンスのところ、ちゃんと今までの方向で、よりしっかり取り組んでもらうということは歓迎しつつも、AI のところはあまり過剰な対応にならないように。あと、どうしても先進国の政府が集まると途上国との関係で、もちろん協力はしていくんだけどあまり無理な話にならないようにということもあって、そのあたりをどう今後方向づけていくか、来年に向けて、ということが話題になってます。必ずしも IGF がどうなるかということが話題の中心にならないのは、逆に言えば、あまり問題ない方向で結果が出たということだと思ってます。当然油断できないわけですけども、来年に向けてこれをしっかり方向づけて。私個人的には OSET、国連事務総長技術特使室も当初に比べると、現状というか今までの流れに合わせてきてる感じがしますので、建設的な方向なんじゃないかと思って見てます。一番の争点は AI の周りになるのかなと思います。それも含めて今後、ちゃんと日本として、あるいは先進国他の国とも協力して。先進国対途上国ではないので、こういう場では途上国の意見をよく聞いていくようにしたいと思ってます。皆さんのルートでもいろんな接触があると思いますので、また来年に向けても、来年がゴールではないので 2030 年に向けて、あるいはそれ以降に向けて、いろいろお話があればまた共有させていただいて、先に向いていきたいと思っています。当面、終わった感があって、こんな感じになったよねという、良かったところは良かったし、次の課題はこの辺だよねっていう感じが、今話題になってるような段階であります。とりとめなくて恐縮ですけども、本日は以上でございます。

加藤: 飯田さま、ありがとうございます。皆さま、いかがでしょうか。ご質問等ございましたら、せっかくの機会ですからお願いいたします。山崎さんお願いします。

山崎: JPNIC の山崎と申します。飯田さんにお伺いしたいのは、先週末ぐらいから国連が GDC に関する賛同受付フォームみたいなのを作ったようなんですけれども。今後、GDC の賛同者を増やすとか、書かれたことを実現に移していくようなプロモーション活動とか、そういうのが行われるんじゃないかと私は想像してるんですけれども。そういうので各国政府に協力を依頼されたりっていうのは、まだない感じですか。

飯田: 直接、われわれもファンドのあれができたとか、エンドースを求めてなんとかっていうのは聞いてはいるんですけれども、直接日本政府に対して話があったというのは聞いてません。外務省で止まっていれば別ですが、今のところは聞いてないです。通常ですと会議で、ああいう形でみんなで賛同しているので、個別にまたサインを求めてくるってことはあんまりないと思うんですが。今後どう動いていくのか。まだ、さっきもお話した通り、これがゴールではなかったの。また今後のモダリティ(様相)とかいろんなことの議論になる中で、賛同をより強化してこうっていう動きを国連側が見せてくるのはあり得るだろうと思ってます。別に用心するということでもなく、おかしな方向にさえ進まなければ協力していければと思いますが、今のところはそういう直接の動きはないでございます。

加藤: さっき高松さんが手を、挙げていただいてたんですが。よろしくお願いします。

高松: 私も山崎さんが今おっしゃったところと同じ点が気になっていて、チャットのほうにも該当する、

加藤: URL 書いていただいていたんですね。

高松: その「Join us in this effort」っていうところを押すと、単に GDC の賛同者募集をしているというよりかは、もう一步、「GDC 中の各パラグラフのこの部分についてあなたはどうか貢献できますか」みたいなところも含めてサーベイのようになっていたのが気になっていて、私も。各国政府というよりかは、その他ステークホルダーに向けて開かれている場所のように見えているんですけれども。日本政府の方がどのように対応されるのか、なんか GDC の事務局のほうからアプローチが行っているのかなというところが気になっていたの。今、飯田さんのおっしゃってくださった内容で、そういう状況なのかというのが把握できたので手を下げましたという状況です。

加藤: 他の方がいかがでしょうか。ご質問、コメント等ございますか。何か出る前にあれですけど、飯田さまのその後、GDC 外で、例えば WSIS+20 とか今年の IGF とかについて、アップデートとか追加の情報とかございますか。

飯田: WSIS+20 に向けては、引き続き G7 プラスアルファで準備体操してるような感じなんですけれども、特段、具体的な進展があるということはないです。今年の IGF に向けては、ぱらぱらとセッションの話とかが来始めてはいますけれども、非常に情報が少ない感じはありまして。各国、先日の G7 でも「行くの?」とか「どんな対応すんの?」っていうレベルの話で、あまり大きな話題はない状態です。例えば各国とか EU とかが、こんなセッションで、去年に続いて、例えばなんて言ってたかな、AI がいっぱいあるのはあれなんですけれども。Declaration for the Future of the Internet の代わりに何やるって言ってたかな、アメリカ政府が企画してるとかそんな話にはなってますけれども。あまり大きな、去年と比べての変動がある感じには受け取っておりません。どれくらい現地に集まって議論が盛り上がるかというところは、もう少し煮詰まってみないと分かんない感じがしてます。

加藤: 他、皆さんいかがでしょうか。特にございませんか。後でも、もし飯田さまいらっしゃればまたお伺いするとして、次のアジェンダに移らしていただきたいと思います。MAG からのご報告っていうことで、河内さん、お願いいたします。

河内: 聞こえるでしょうか。

加藤: はい、聞こえています。

河内: MAG ですね。画面共有させていただいてもよろしいでしょうか。

加藤: お願いします。

河内: 前回の活発化チームの会合の翌日か翌々日に、前回の MAG のリモート会議行われました。前はそれほど大きな話題はあまりなくて。プログラムのほうも、9 月 25 日の時点ではウェブサイトに乗ってるプログラム、まだメインホールのプログラム出てなかったんですけど、さっき見たら入ってました。Day 0 は今のところ何もプレナリーホールにまだ入ってなくて。Day 1 にはオープニングセレモニーとか、メインセッションは 4 つ、MAG が作っているものは入っているんですが。ハイレベルリーダーズセッションとか、パラメンタリー（議員）セッションは 1 個入っていたと思います、ここにパラメンタリートラックが 1 個入ってますけれども。メインセッションとそれしか入ってなくて、ハイ

レベルセッションは全然、まだ中身とか日程が決まってないらしく。空いてるところに入るんだとは思いますが、一応、プレナリーホールのプログラムもここに入ってるのが現状だと思います。NRI もメインセッションがここに入っているということで、9月25日時点ではプレナリーホールの予定が入ってなくて、「いつ出るのか」という話をしていました。資料に戻ります。登録状況などについて事務局から説明があって、「この時点ですでに2000人以上は登録しているので、早く登録してほしい」とか「ビザも余裕を持って申請したほうがいい」とかいう話がありました。その中で一番の大きなトピックとしては、ここら辺に書いてあるんですけど、来年のMAGのメンバーについてなんです。いつもMAGのメンバーは、ご存じの方も多いと思いますが、各ステークホルダー、産業界とか政府とか市民社会とか技術コミュニティからそれぞれ推薦されて、毎年3分の1ぐらいずつ入れ替わりで3年ずつの交代なのです。私ももう3年目なので今年で終わりなんですけど。新しく3分の1ぐらいがそれぞれのセクターから推薦されて入れ替わるというのが通常の、これまでのMAGメンバーのローテーションなんですけど、2025年はWSIS+20があって、IGFが、大丈夫とはいえ変わることもあり得るかもしれないので重要な年であるというのが一つと、それから20周年記念だと。もう一つは、これよく分かんないんですけど、来年のIGFの開催地候補って、まだ公表されてないんですけども、2カ所候補があってどちらも結構寒い地域で、しかもどちらかは「もしやるんだったらIGFを6月末にやる」とかって言ってるらしいです。どこなのかよく分かんないんですけど。そうすると毎年やってる、例えばワークショップのセレクションだとか審査とか、そこら辺を超特急で1月からやらないと間に合わないということで、2025年だけ特別にMAGのメンバーを、今までのやり方ではなく、過去のMAGメンバーから推薦を出してもらって、その推薦をもとに2025年だけのMAGを立ち上げたいと言っていました。そのMAGメンバーがその後1年のみでやるのか、それとも2024年でまだ任期が終わらないメンバーがまた2026年から戻るのか、その辺は「まだ検討中だ」というようなことを言っていました。

この話は過去の、MAGのパブリックって今のMAGメンバーだけじゃなくて、過去のMAGメンバーも入っているメーリングリストに全部この話は流れていました。ただ、まだ募集がかかっておらず、これからかかると思うんですけど、どうなるのか様子を見ていきたいと思っています。あとは、MAGが企画している4つのメインセッションの企画についてのそれぞれのアップデートです。スピーカーがどれくらい決まってるとか、内容がどれくらい決まってるとかということが、それぞれのメインセッションの責任者から報告がありま

した。メインホールのセッションは、さっきちょっと言った話。あとは各ワーキンググループとかポリシーネットワークとか NRI とか、そういうところの報告が行われました。次回は来週火曜日の UTC11、12 時って書いてありますが、日本時間でいうと 29 日火曜日の夜中の 24 時からの予定になっています。以上です。

加藤: ご質問等ございますか。

河内: 山崎さんが手を挙げていらっしゃるでしょうかね。

加藤: 山崎さんお願いします。

山崎: たびたび山崎です。河内さんに質問したいのは、6 月ですよ。MAG で実現可能性っていうか、めちゃくちゃ、去年の 10 月でも結構早くスケジュールが詰まってるっていう感じがしたんですけど。6 月ってめちゃくちゃ急がないと間に合わないんじゃないかと思ったんですけど。その辺、MAG の皆さんどうお考えでした？

河内: みんな自分が MAG になる、なる可能性のある人がどんだけいるか分からないですけど、大変そうだねっていう感じっていうか、ちょっとまだ他人事的です。事務局が一番大変だと思います。われわれはまず、すぐワークショップの提案の募集かけて、それを事務局が全部整理した上でわれわれが評価してというようにやります。評価が終わるのがいつも 6 月、もう 6 月ですから。6 月の中旬とかで、対面会合で最終的に決めて。それを巻かないといけない、巻くところって多分事務局ですよ。だから事務局が一番大変だと思います。MAG が大変というより事務局だと思います。なんで、やり方を少し考えないと実質的には無理だろうとは思っています。

山崎: 6 月、あまりにも早いんで。冬は寒いってのは分かるんですけど。8 月とか 9 月にしてくれればいいかなと思いました

河内: なんで 6 月なんだろうって。ある人、WSIS+20 が多分 6 月じゃないですか。それにタイミングを合わせようとしてるのか、その辺よく分かんないんですけど。いくら寒くたって別に屋外でやるわけじゃないから、北極でやるとか言ってるわけじゃないので。その辺はよく分かんないんですけど、6 月にやりたいと言ってるという話です。ただそこが候補地であって、そこに決まったわけではないはずなんですけど、その辺はよく分かんないです。

山崎: 国連総会より前に終えたいという意思を誰かお持ちなんですかね？

河内: あるんですかね、分からないです。

加藤: 他の方がいかがでしょうか。次回の MAG が 29 日にあるということで、もしその時に追加の情報があれば。活発化チームの会議とタイミング的に、MAG の直後に活発化チームがちょうど来ればよかったんですけども。ずれて少し時間遅れになって恐縮なんですけれども、また追加の情報があれば、メーリングリストで流していただけることはお願いしたいと思います。

河内: 分かりました。

加藤: 皆さん、いかがでしょうか、ご質問等。結構新しい、

河内: 今高松さんからチャットでいただいているのは、先の数字はオンラインを含めてということで、現地登録だけではないです。

加藤: ちなみに、今回も参加される予定の方って例年通りたくさんいらっしゃるのでしょうか。ここ（活発化チーム）の会にお集まりの方、そろそろ、いらっしゃる方同士は情報交換等始めてもいいのかなって思うんですが。

河内: もし行かれる方でまだビザを申請されていない方がいらっしゃったら、IGF のページから飛ぶところからビザの申請をしないで、ビジットサウジだったか日本語のサイトがブラウザで検索してもらえばあると思うんですけど、そっちからやったほうがスムーズにいくんじゃないかと思います。もし何か詳細必要でしたらお送りしますんで、ご連絡いただければと思います。

加藤: 活発化チームのメーリングリストに流していただいてもいいかもしれないですね。

河内: 今チャットに送ります。

加藤: チャットに入れていただいてもいいですね。皆さん、他にご質問等いかがでしょうか、よろしいでしょうか。それじゃあ河内さん、ご報告ありがとうございました。引き続きおいでになって、追加の質問があればお受けいただければと思います。次に、NRI に関してアップデートですけれども、これも山崎さん、河内さん、いかがでしょうか。

山崎: NRI の会合では、IGF サウジアラビアでやる NRI メインセッションの登壇者につ

いて議論しましたがまだ確定はしてなくて、明日、今月の会合がありますので、そこで議論する予定になっています。その会合では特に議題にはなってなくて、セッションごとの会合があるんですけども、そこで私が担当なのはインクルージョンなんですけども、こちらに関しては登壇者とモデレーター、確定したということで。加藤さんがご担当のニューテクノロジーのセッションについては、登壇者は一部最終確認中ですけど、モデレーターは確認したということだそうです。河内さんのミスインフォメーション、ディスインフォメーションのほうはどういう状況でしたでしょうか。

河内: <聴取不能>があって、その時も大体スピーカーのパネリストとかモデレーターの候補は出ていて、それぞれの候補者に事務局からアクセスして可能かどうか聞くとかっていう話になって、その後何も連絡が来ていないので、その後の状況は分かりません。おそらく、まだ確定まで行っていないもののパネリストに打診しているところだと思います。

山崎: NRI に関してはそれぐらいでしょうか。加藤さん、河内さん、補足はありますか。

加藤: 今の河内さんと一緒に、このニューテクノロジーに関してもそうなんですけれども。メインセッションも名前はほぼ確定していてリストで回ってるんですが、その人たちが本当にどういう形で出れるかっていう最終確認を事務局がやってるっていう意味で確認中という意味です。そういう意味で、どのセッションもほぼ全て決まってるという状況になってると思います。いかがでしょうか、NRI の状況は。NRI のほうは割と早めからいろいろと、議論の概略とスピーカー、モデレーターが決まったので、割と準備は早く進んでいるかなという印象だったんですけども。

何かご質問ございますでしょうか。もしなければ次の項目として、その他の会議に関する報告、イベント等の情報共有、この辺何か皆さんにご披露いただくような情報ございますか。先ほど、GDC に関して飯田さまからかなり詳しくいただいたんですけども、WSIS+20 とかその他。もう NETMundial+10 のその後っていうのは、前村さん、ないですよ。いろんなところに引用されてはいると思うんですが。

前村: 特に聞いておりません。

加藤: その他の会合に関してっていうことでは特にないですか。先日ちょっと聞いたところで、河内さん突然振って恐縮なんですけど、EU のカウンスルのほうで IGF の延長につ

いての意見書みたいなのが出ていたように記憶してるんですが。あれって公開された情報ですよ。

河内: そうだと思います。今すぐ出ますかね、ちょっと待ってください。

加藤: もしあれば。割と短い文書で、明確に「IGF を 10 年延長するべきだ」みたいな内容の決議があったように見えたんですけども。そういう意味で、WSIS+20 に向けて、いろんなところで動きが始まっているのかなという気がしました。すいません、突然振って恐縮。出そうですかね。

河内: 出ます、ちょっと待ってください。

加藤: これに限らず、いろんなところでいろんな意見を、いう動きがこれから活発化するのかなと思いますけれども。

河内: チャットには貼ってみました。今チャットに貼った URL でここへ行くと思うんですけど。

加藤: その紙自身が出てこないで、The Council of Europe のサイトになっちゃいました。

河内: これサーチしてるんです、なんでちょっと。これ自体は正式な、「Adopted by the Committee of Ministers on September 25」って書いてあるのでちゃんと採択されているのだと思うんですけど。この内容は、要するに The Council of Europe が、「IGF は重要でサポートしていて、あと 10 年はやるべき」、10 年とか 20 年...

加藤: 10 年だったような気がしました。

河内: 「10 年は続けるべき」みたいなことが書いてあると思います。

加藤: そういう決議があったみたいな内容に読めたんですけど。

河内: ということで、もしよろしければ見ていただければと思います。

加藤: これ以外にも何か、いろんな会議とか情報共有いただくようなこと、ございますか。特にございませんか、皆さま。それでは情報共有っていうのはそこまでとさせていただいて、あとはアジェンダに沿って続けさせていただきたいと思います。

まず、活発化チームの今後についての検討ですけれども。実は定款案がかなり煮詰まって、

というご報告を前回はさしていただいたんですけれども。それに基づいて、発起人として名を連ねたいという方々が、いろいろとお話を進めていただいているって伺っています。何か具体的に決まったってことでなくて、まだ議論が続いているという状況です。特に何か、ここに書いていただいた通り大きな動きが私の知る限りではないんですけれども、もし何か情報共有いただける方があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。これまで活発に参加されてきた JPNIC さんとか JAIPA さんからコメントいただくことがあれば、お願いしたいと思います。

前村: 前村ですけれども、JPNIC から何かご報告するようなことがあるわけではなくて、それくらいしか言えないです。もめてるっていうことでもないんですけど、すいません。

加藤: いろんな調整をしていただいているという理解で、

前村: そういう感じだと思います。

加藤: すごく大きな問題があるとかっていうんじゃないくて、皆さんで足並みをそろえていただくのに、各団体の方々が意見調整していただいているという、

前村: それはお察しの通りだと思います。

加藤: そういうことかなと思います。さっき拝見した限りでは、JAIPA さんも、木村さんお出になってますが、木村さんからもコメントございますか。

木村: すみません。今日、立石さんが選挙の応援の件で出られて。

立石: 私、今入りました。出ていたもので、すいません。

加藤: ベストタイミング。今、本チームの今後に関して、特に大きな動きはないけれども、前村さんからも「何かもめてるとかっていうことじゃないけれども、いろんな関係者で調整中です」というコメントがあったんですが。立石さんから何か、

立石: 右に同じです。ぼちぼち最終的なまとまりはできる、決着って言い方は変ですけど、収束するんじゃないかなと思ってます。特に何かあるわけではないです、前村さんに同じです。

加藤: いろんな団体の内部での調整含めてお話は進めていただいているということで。そろそろ調整の最終段階に近づきつつあるということも推測しますけれども。できれば次回

とか次々回でその辺、ご報告、ご相談できることを期待しております。何か、

立石: 途中で抜けちゃうかもしれません、すいません。

加藤: 本チームの今後に関してはそんなところでよろしいでしょうか。ご質問等あれば、皆さま。もしまだあれば後で聞いていただくとして、今日多分一番重要なアップデートの議題に移らしていただきたいと思います。すでに最初のご案内を事務局から、山崎さんのほうからお出しいただいているんですけども、今年の IGF の国内会合です。概要が決まって、すでにいろんな方にご案内さしていただいた状況でございます。これについて、できれば山崎さんをお願いしてよろしいですか。大体のポイントここに書いていただけてますが、まとめてそれをご報告いただいて、もしご質問とかさらにコメントいただければ、それを反映させた形でさらに詳細なプログラムを企画したいと思います。山崎さんいかがでしょうか。概要だけご報告、お願いしてよろしいでしょうか。

山崎: もちろんです。山崎から簡単にご報告します。9 月末にセッションの公募をいたしまして、結果 9 件もご応募いただきました。非常にありがたいです。

プログラム委員会で選定をしました結果、全セッション承認されました。それプラス、企画セッションというのを 2 つ、プログラム委員会で開催する予定です。あとは、イベントの最初にご挨拶をということで、村井純慶応義塾大学教授からはビデオレターでいただけると伺っております。国連 IGF 事務局チェンゲタイ・マサング氏からも、同じくビデオレターでいただけると伺っております。活発化チームからは加藤さんをお願いしたいと思います。あと、総務省データ通信課の宮本さまをお願いして、総務省内で検討いただいているということです。

加藤: もしよろしければ、これ出していただけてますね。簡単に 9 つのセッション、プラス企画セッションについて、さっとお話触れていただくことができますか。皆さんこの表はご覧になってないと思うので、こんな感じだっという、

山崎: 先にアナウンスした時点ではこの時間割りまでは出していなくて。

加藤: 細かく書いてないので、今考えてる案はこれです、

山崎: 日程と各日単位でどのセッションやるのかとかしか書いてないんですけども。11 月 5 日は開会挨拶してから応募セッション 7「NTT 法改廃のインパクト」、応募セッション

1「生成 AI の誤判断とデジタル社会の生命線とリスク」、応募セッション 9「CSAM に対する取り組みと日本の現状」、この 3 つのセッションを開催予定です。11 月 6 日水曜日は、「スラッジ情報と偽情報、誤情報の取り組み」、「地域インターネットレジストリ機構の再検討」、「アジアと日本のインターネットガバナンスのこれから」、以上 3 つがこの日の応募いただいたセッションです。最後に企画セッションとして「インターネットガバナンスの今後」ということで、GDC とか WSIS+20、この辺について今後どうなるかってというような議論をしたいと考えています。7 日ですけど、最初に「Advancing the security of today's critical infrastructure」ということで、量子コンピューターとか暗号とかそういうものが含まれるセッションです。こちらのセッションは英語で開催されます。次に「Fiber to the Home を活用した草の根ウェブサーバーによるリッチコンテンツ配信について」、これは IGF サウジアラビアでもライトニングトークとして開催されるセッションということです。その上のアドバンシングセキュリティっていうやつも IGF リヤドでセッションとして開催されるもので、ここでやるのと IGF 本体やるのと同じ登壇者と伺っています。その次に、企画セッションとして「日本における国内 IGF 活動の今後」です。最後に「マルチステークホルダーモデルの成立条件を考える」。以上が、日本インターネットガバナンスフォーラム 2024 で開催される予定の全セッションとなります。

加藤: 1、2 点、補足させていただきますと、ご覧になった通り、開始時間が 3 日間で微妙に違うんです。これは登場いただく方々のご都合、特に 3 日目の木曜日は地球の裏側から南米の方がリモートで参加していただくっていうことで、日本時間の午後遅めになると向こうは真夜中の真夜中にスタートっていうことで、その辺を考慮してぎりぎりこれぐらいの時間から始めさせていただくのはどうかということを考えてしたこと。それから日によって何時まで可能だとかっていうことを調整させていただいて、プログラム委員会でその辺を出席者の方々にも再確認した上で当てはめさせていただいたっていうことで。

案内には注意深く開始時間が若干違うっていうことをもう一度リマインドさせていただきますけれども、そういうことだっていうことをご了解いただきたいと思います。それから企画セッションの 2 つに関して、山崎さん、もう一言ずつご説明いただいたほうが良くないですか。2 日目の、これを見せていただくといいですね。

山崎: 企画セッションですけども、提案いただいたセッションほどかっちり決まっているわけでは、必ずしもないんですけども。最初というか順番は前後しますけども、「日

本における国内 IGF 活動の今後」というのは、

加藤: これは 3 日目の、

山崎: 3 日目の。法人設立は目指して活動はしておりますけども、できた後何をするかというところについて皆さんに議論いただくということで。パネリストの皆さんに一部打診中というところになって、「もうちょっと広げたほうが良いのではないか」というコメントもいただいております。2 日目にあるほうの「インターネットガバナンスの今後」については、未来サミット、GDC、WSIS+20、IGF 継続、このあたりについて議論いただくということで。こちらと同じような顔ぶれですんで、もうちょっと新しい、若手の方々などに声をかける予定にしております。

加藤: 大体それぐらいでよろしいでしょうか、山崎さんのご説明。

山崎: 私からは以上ですけども、ご質問等あれば。

加藤: ご質問と、あといろんなサジェスションいただければありがたいと思います。今からでも細かい修正をしながら進めたいと思いますけれども。皆さんいかがでしょうか。今日は上村先生とか実積先生とかも入っていただいています。ご質問やご意見、もしあればお願いしたいと思います。総務省から宮本さまもご参加いただいています。総務省のほうでもどうぞ対応いただくかについて、何かコメントいただくことがあればお願いしたいと思います。特にございませぬか、今。大枠はこういうふうに決めさせていただきましたが、おおむねこれでご了承いただいで、あとはこれに沿って細かいところをセッションの応募者と詰めさせていただいて、当日やらせていただくということでよろしいでしょうか。何かご懸念点等もあれば、この場でご指摘いただければと思います。

山崎: 高松さんから手が挙がって。

加藤: すいません。見えなくて、失礼しました。高松さん、お願いします。

高松: チャットのほうにも書かせていただきましたが、11 月のイベントは法人化の議論もされるかなと思ったんですけど、それはイベントの前に設立されていることはないって理解でよろしかったでしょうか。ていうのと、「法人化したら何をしようか」みたいなお話って、その法人がある程度何をするのかみたいなイントロダクションがあるのだから

うかというのがちょっと気になっていて。そういうのも無関係に広く議論をするっていう形もあると思ったんですけど、定款レベルとかである程度形ができているのであればそれを前提にどうしていくといいのかみたいな、より実現可能とか参考になりそうな話をさせていただくというのもありなのかなと思ったので、質問とコメントとさせていただきました。以上です。

加藤: 山崎さんいかがですか。私からお答えしましょうか。

山崎: 加藤さんからお答えいただいても構いません。私から申し上げても、どちらでも。

加藤: 山崎さん、お願いします。

山崎: もし違ったら、加藤さん、割り込んでください。私の理解では、定款レベルはほぼ確定しているので、今後は個別に設立する団体が打ち合わせをするというのが残っているという認識なので。先ほどあったようにそんなにちゃきちゃき進んでるわけでもないの、国内事前会合開催前に組織ができるってことはなさそうということですし、事前会合の場で議論できることもあまりないということで、その話はあまり、せいぜい状況の報告ぐらいであまりないんじゃないかというのが私の認識です。

加藤: 加藤から補足です。山崎さんご指摘の通り、時間的に見て、先ほどかなりいろいろと関係者のお話が進んでるっていうことではありますけれども。11月5日までに定款をファイルして会社が法人として成立している、発起人会議があって成立してるっていうのは、タイミング的に難しい状況になっておまして。そういう意味では、この日はこういう法人化ができましたっていうご報告ではないので。考え方として、「概要ですけども、こういう法人化を考えています」っていうご報告が一つ。それは定款レベルで細かいご説明をするっていうよりも、こんなストラクチャーっていうのを、外観を申しあげることかなって思います。それが一つと。もう一つはもっと重要なことなんですけど、この活発化会議を通じて、例えば、これまでもそういう話ありましたが、毎月、今日のような連絡会的な会議に加えて、昔 JPNIC さんなんかも随分指導してやっていただいたわけですけども。各界、何か専門家の方とかに簡単に案件ごとのご報告をいただいて、それを質疑応答するというような、そういうサブスタティブなものも入れたらどうかっていう議論を、私からも提案させていただきたいなって思っています。法人化することによって、さらに活動活発化するというのに合わせて、そういう活動をしていったらどうかというお話をさせていただきたいと思います。それについてどんな、今後このグループが、こと

をやっていくか、どう変わっていくべきかということをご皆さんで議論していただく、そういうセッションかなと思っています。山崎さん、後半の部分いかがでしょうか。このセッション自身、特に山崎さんからもご提案いただいた内容で。そんなことで方向性あってますでしょうか。

山崎: 私が考えてるのとほとんど一緒だと思いますけども、これは私のセッションではなくて、プログラム委員会が企画したものですので。

加藤: もちろんそうです。

山崎: 私の一存で決まるという性質ではありませんので、プログラム委員の皆さんが強く反対とかされない限りは全然問題ないんじゃないかと思います。

加藤: ご指名いただいて私がモデレーターをさせていただくことに、ご提案いただいているので。私としては今のような、「法人化についてこういう動きがある」というご報告は手短にした上で、「活発化チームの今後はこういうことをしていったらどうでしょうか」という頭出しだけをして皆さんでご議論いただく、そんなセッションにしたいなと思っています。前村さん、何か。

前村: すいません、ミュートするべきでした。失礼しました。

加藤: いかがでしょうか、皆さん。大体11月5日、6日、7日の今年のセッションについてご報告をいただいたわけですが、繰り返しになりますけれども、こういうことをやったらどうかとか、こういう方向性でやったらどうかということがあれば、お願いしたいと思います。あと今日お集まりの方で、「自分もセッションに手を挙げていて、こんなことをやろうと思っています」というようなことのご披露でももちろん結構です。

特にコメントございませんか。追加のコメント、ご質問なければ、この方向で進めさせていただくということでご了承いただければと思います。一応以上が本日本日予定していた議題なんですけれども、何か追加でこういう情報があるとかご報告があるとかご質問があるとか、そういうことございませんか。特にございませんか。今日そういうご質問なければ、次回は11月5、6、7の場で皆さんにお目にかかるなり、またリモートでお話しするなりということになると思います。企画セッションに限らず、IGFの良さはみんなが意見を言い合うということですので、いろんなセッションについてもご質問とかご意見の形でご参加いただければと思います。基本的にはリモートでご参加いただくとおもいますが、フィ

ジカルに会場に来ていただくことも大歓迎ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。
あと決めることとして次回の会合ですけれども、3週間後ですと11月11日の月曜日、4週間後ですと11月18日の月曜日です。私自身はどちらでも、タイミング的にはいいのかなと思ひますが。どちらかが何かの会議に当たっているとかが都合悪いとか、そういえば11月11日、ICANNの週でしたっけ。

前村: その通りです。

加藤: ということは、どちらかっていうとICANNご参加の方々は、その翌週Internet Weekありますが、18日なら大丈夫でしょうか。前日では、

前村: どうにかできるのは18日だと思います。

加藤: そっちのほうがよろしいですね。

前村: はい。

加藤: じゃあ主な方は次回、日本IGFでもお目にかかるということで。次回は4週間後の11月18日月曜日、5時からということではいかがでしょうか、皆さま。特に異議なければそのようにさしていただきたいと思ひます。繰り返しになりますが、もうそれ以外に何かコメントいただく項目はございませんでしょうか。それじゃあ今日は1時間弱で終了したということで、大変効率よく進めていただいてありがとうございます。再来週、日本IGFの会議でお目にかかりたいと思ひます。本日はありがとうございます。これで失礼させていただきます。

前村: ありがとうございます。